

ほうでえ～

ありゃ～のう

周防大島町の話題

星野哲郎記念館 10周年を祝う



▲くす玉割りで祝う（左から）柳居俊学山口県議会議長、椎木町長、有近真澄さん

星野哲郎記念館が開館10周年を迎え、7月16日、記念のセレモニーなどが行われました。

同館は平成19年7月25日にオープンし、平成25年12月には入館者数が累計20万人を突破。本年6月末現在で24万4千人を超える入場者数を記録し、町を代表する観光施設のひとつとなっています。また、記念館のオープンに際して設立された「星野哲郎スカラシップ」制度は、償還義務のない奨学金を支給し、ふるさとを想う若者の育成に役立てられてきました。

星野哲郎記念館で行われた記念式典では、椎木町長が「星野先生が周防大島町の出身であることは誇り。先生のふるさとを想われたお気持ちやご功績をしっかり継承していく」とあいさつ。星野先生のご子息、有近真澄さんも出席され「記念館を通じてまちの皆さんの愛情が伝わる。今後も企画展などで楽しんでいただけるようがんばりたい」とあいさつされました。鳥羽一郎さんの企画展を開催中の同館では、この日、10周年を記念



鳥羽一郎さん



山内恵介さん



川野夏美さん

して全館を無料開放。来場者へは餅が配られ、大勢の皆さんと共に祝いました。

また、この日の午後からは、橘総合センターにおいて「えん歌蚤の市」星野哲郎メモリアル篇」と題してコンサートが開かれ、音楽プロデューサーで星野先生と共に歩まれた小西良太郎さんが、星野先生との思い出話を披露。歌詞を書き留めるために箸袋を使っていたことや、その箸袋を奥様がきちんと整理されていたことなど様々なエピソードを紹介されました。また、出演された歌手の皆さんも、デビュー当時の星野先生とのエピソードとともに、鳥羽一郎さんは「風雪ながれ旅」、山内恵介さんは「みだれ髪」、川野夏美さんは「雪椿」など星野先生の代表曲の数々を熱唱されました。エンディングでは「三百六十五歩のマーチ」を来場者も一緒に合唱しました。